

琉球大学学術リポジトリ

アルゼンチンにおけるバスク自治州政府の在外バスク系同胞支援策：聞き取り調査報告

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄移民研究センター 公開日: 2018-11-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 酒井, アルベルト 清, Sakai, Alberto メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002010086

アルゼンチンにおけるバスク自治州政府の在外バスク系同胞支援策 — 聞き取り調査報告 —

酒井 アルベルト 清

本研究プロジェクト（「文化共有集団による越境的ネットワークの国際比較研究」）の一環として、2015年10月26日から11月1日までアルゼンチンを訪問し、その中で、ブエノスアイレス市にあるアルゼンチン・メルコスール（南米南部共同市場）バスク自治州政府代表部で聞き取り調査を行った。本稿では、そのインタビューの一端を報告し、在外バスク人同胞に対するバスク自治州政府のスタンスおよび支援政策の現状について紹介することとする。

○インタビュー概要

実施日時：2015年10月27日（火）午前11時

場所：バスク州政府代表部 Av. Alicia Moreau de Justo, 846, Buenos Aires

バスク自治州政府代表部側出席者：

- ・サラ・パゴラ・アイスピリ（Sara Pagola Aizpiri）代表部長
- ・マリアナ・サトステギ（Mariana Satostegui）渉外担当官
- ・ヨシエバ・ベルガレチェ・シプトリア（Joseba Bergaretxe Zipitria）インターン

アルゼンチン・バスク週間とバスク語の普及

まずは2015年のアルゼンチン・バスク週間（10月26日～11月1日）がラ・パンパ州のマカチンという小さな町で開催された理由について述べられた。それは、アルゼンチンにおけるバスク語習得プログラム「Argentinan Euskaraz」が1990年に始まり、第一回受講生合宿がマカチンで行われたからである。そもそもマカチンにはバスク人入植の歴史があり、参与観察でも確認できたように、今もなおバスク文化が深く息づいている町である。

パゴラ代表部長曰く、今年のバスク週間は25年間という一つのサイクルの終わりを意味する。また、マカチンないしアルゼンチンのバスク系コミュニティに対して「容易ではない言語〔バスク語〕を習得する努力に感謝するとともに、不利な状況下にもかかわらず、私たち〔祖国〕の文化への愛情を究極に表現したものである」と認識している。

外国政府の言語政策に対する助言活動

続いて、バスク自治州政府代表部のひとつの活動として、外国政府との協力について紹

介された。

琉大プロジェクトチーム（以降「R」と表記）：私たちからすると、バスク語の復興はとても良かったというか、理想的ですね。

バスク州政府代表部（以降「V」と表記）：沖縄では琉球語は公用語と認められていますか？

R：いや、まだ言語の統一についての議論の段階です。なぜかと言いますと、琉球語の中に多数の方言があるからです。各村に独自の言葉があるような感じで、共通バスク語のようなものがないのです。

V：日本語とはとても違うのですか？

R：そうですね。もっとも、起源は一緒ですが。カタルーニャ語とスペインのようなのでしょうか。いや、それよりもっと離れているかもしれません。ただし、バスク語とスペイン語程の違いではありません。

V：この25周年のイベントのために、バスク自治州政府言語政策副大臣がアルゼンチンを訪問する予定で、いくつかのシンポジウムにも参加する予定です。それを機に、まず最初はパラグアイ政府と面談し、グアラニー語復興への協力に関する議定書を結ぶことになっています。パラグアイでは[スペイン語と共に]グアラニー語が公用語となっているので、バスク州の状況に近いかと思います。ただし、庶民がグアラニー語を使っている、行政・司法・立法などといった公式の場では用いられていません。その点はバスク自治州と異なります。役所での手続きをグアラニー語で行うことができませんし、私たちがみた限りでは教育でもあまり導入されていないそうです。私とマリアナ[渉外担当者]はバスク語のような地位にあるものかなと当初思っていたが、実際のところ空港でさえグアラニー語の表記はなかったのです。一度パラグアイの言語政策局長（大臣クラス）と面会して、大変興味を示して頂きました。副大臣と一緒に訪問する際は、色々なミーティングはもちろんのこと、国会でまで演説を行う予定です。バスク人の経験に対して関心を寄せてくださったので、今度の協定のもと、公の場でもグアラニー語が使われるよう努力します。

新しいコミュニティ、古いコミュニティ

R：ブラジルにはバスク系移民のコミュニティもありますか？

V：サンパウロにバスクセンターが二つあり、ブラジリアにもうひとつあります。ただし、その構成員は最近移住してきた「新」バスク人なのです。それらは、これまであまり組織化されていませんでしたが、リオグランデ・ド・スル州のバスク人は段々組織立っ

てきています。本当に素晴らしいです。なぜなら、こちら[アルゼンチン]には既に[バスクの]伝統があり、踊りや祭りを守り続けていますが、逆に彼ら[ブラジルのバスク人]は自らの起源を発見し始めているからです。自分のアイデンティティを知るようになったばかりなのです。

R:ところで、バスク州政府は既存のバスクセンターしか支援しないのでしょうか。

V:そうですね、種まきのようなことはしませんね。ただし、リオグランデ・ド・スル州や、最近だと[アルゼンチンの]サン・マルティン・デ・ロス・アンデスやロールダンのようなところでは、新たなコミュニティが芽生えている地域では、私たちは駆けつけて援助するようにします。[略]というのも、私たちの使命は「バスク系同胞コミュニティと交流を深める」ことだからです。そういったコミュニティと直接会って、耳を傾けて、彼らのやりたい活動をサポートすることが私たちの役割です。[支援の度合いは]そのコミュニティの性格にもよりますね。とてもアクティブであれば全面的に支援するようにします。例えば、サン・マルティン・デ・ロス・アンデスでは、今月バスクにおける男女共同参画政策についての展示が行われました。それはバスク自治州政府にとって重要な政策なので、サン・マルティンのコミュニティでは関心が高かったようですが、資料入手でサポートしました。また、今度はチーズを作りたいと言ってきたので、[バスク特有の]ラチャ羊を提供できるかどうか検討しています。ポートルースの話も出てきましたね。アイデアが色々あって、しかも多種多様です。従来のバスク系同胞コミュニティとの違いは一目瞭然ですね。

「同胞」の範囲

R:広い意味で「バスク人」という呼び方をなさっているかと思いますが、ナバラ自治州を起源とする人は含まれているのでしょうか？

V:バスク系コミュニティとは、7地域(エウスカル・エリア)からの同胞を指しますが、ここアルゼンチンでは正にそうなのです。初期はナバラ自治州やフランス側バスクからの移民が多かったですし、バスクセンターにとってメンバーの出自等はどうでもいいことです。バスクセンターはみな同じです。

R:援助する際もみな同じですか？

V:はい、[バスク自治政府に]認定されたバスクセンターですし、実はほとんど全てのセンターにバスク7領域の地図を飾っています。アルゼンチンにはナバラセンターというものがあります。一番大きなのはロサリオにあるセンターや、そのほかにマル・デル・プラタ、ブエノスアイレスなどにもあります。

V : ナバラセンターですか？

R : そこにはナバラ自治州政府の援助を受けていて, [バスクセンターとの] 差別化を図ってきましたが, 最近の [ナバラ自治州政府の] 政権交代で状況が変わるかもしれませんね。大半のバスク系同胞は元々ナバラやフランスから来ていますから。

バスク・ディアスポラ関連のデータベース

Urazandi Digital

バスク・ディアスポラが発行した機関誌のデータベース。一番古いバックナンバーは1878年のものがある。 <http://urazandi.euskaletxeak.net>

Euskaldunak Munduan

バスク自治州政府が発行する, バスク系移民のオーラルヒストリー。

目次 : http://www.lehendakaritza.ejgv.euskadi.eus/r48-contcvpv/es/contenidos/informacion/06_euskaldunak_munduan/es_eus_mun/inicio.html

Euskal Etxeak.net

世界のバスクセンターのポータルサイト。各センターが自分の情報をアップロードする仕組みであるため, 更新が行き届いていないものもある。

<http://www.euskaletxeak.net/>